

「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し（第三次）のあり方について 〔骨子案〕

はじめに

1 見直しに至る経過

- ・「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」（平成 20 年 12 月）は、概ね 5 年を目途に見直しを行うこととされており、平成 26 年 4 月に第一次改訂、令和元年 10 月に第二次改訂を行い、現在に至っている。
- ・令和 6 年 1 月 25 日開催の審議会にて、今期の審議テーマを「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の第三次見直しのあり方について審議することとした。
- ・本審議会では、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」に沿って、現在の市民センターの取り組みについて館長等から報告を受け、併せて市民センター事業視察を行い、本市における市民センターを基盤とした生涯学習の現状を調査し、見直しのあり方について審議した。

2 今期の審議会の経過

- ・「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の第三次見直しに係る今期の審議会の経過は以下のとおり。

日付	審議テーマ等
令和 6 年 11 月 16 日	・仙台市公民館運営審議会について ・仙台市市民センターの概要について
令和 6 年 1 月 25 日	・仙台市市民センターの事業の概要について～仙台市市民センターの施設理念と運営方針から～ ・仙台市市民センターの運営について
令和 6 年 3 月 14 日	・地区市民センター（地区館）事業について 大沢市民センター、八木山市民センター、加茂市民センター
令和 6 年 5 月 16 日	・地区市民センター（地区館）事業について 岩切市民センター、荒町市民センター、山田市民センター
令和 6 年 7 月 4 日	・区中央市民センター（区拠点館）について ・生涯学習支援センター（市拠点館）について ・生涯学習、公民館に係る最近の動向について
令和 6 年 8 月 7 日	・視察について（書面開催）
令和 6 年 8 月 7 日	・鶴ヶ谷市民センター視察実施
令和 6 年 9 月 7 日	・北山市民センター視察実施
令和 6 年 10 月 12 日	・柳生市民センター視察実施
令和 6 年 11 月 14 日	・視察について報告 ・提言案のまとめ方について
令和 7 年 1 月 23 日	提言（骨子）の確認

日 付	審議テーマ等
令和7年3月13日	提言（中間案）の確認
令和7年5月22日	提言（最終案）の確認

Ⅱ 見直しにあたって

1 見直しにあたっての観点

- ・人口減少や高齢化をはじめとする多様な課題の顕在化、急速な社会経済環境の変化を受け、地域社会においては住民主体でこれらの課題や変化に対応すること、地域の魅力や特色を見つめ直し、その発展に取り組むことが求められている。
- ・市民センターは、地域活性化・まちづくり・防災拠点などの役割も期待され、住民参加による課題解決や地域づくりの担い手育成に向け、住民の学習と活動を支援する機能を一層強化する必要がある。
- ・前期審議会の答申である「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」は、住民参画型学習事業のみならず、市民センターが取り組む各種事業にも反映できる要素が盛り込まれている※。
- ・今後も市民センターが、学び・交流・地域づくりの拠点として、地域社会からの期待や要請に応え、その機能をさらに充実させていけるよう、市民センターにおいて実施すべき事業のあり方や取り組みを調査し運営方針に反映させる。

※答申の主なポイントは12ページ参照

2 審議にあたっての留意点

- ・以下の3点を踏まえ検討を行うこととした。

- より多くの住民が、地域づくりを含む多様な活動に主体的に参加し、世代を超え学び合い認め合う相互のつながりを形成するためのきっかけづくりとして、市民センターが取り組むべき方策を検討すること。
- 課題解決や地域づくりに取り組む人材を育成し、多様な主体との連携・協働を推進するための市民センター運営のあり方について検討すること。
- 震災の経験やコロナ禍からの回復の観点を踏まえた市民センターに求められる役割について検討すること。

Ⅲ 生涯学習に係る最近の動向

- ・ 国等の資料のうち、生涯学習に関する部分を抜粋する。

1 生涯学習推進と公民館の政策動向のポイント

- 持続可能な社会の形成、社会の創造的な発展に資する（担い手育成、環境整備）
- ウェルビーイングの実現（個人と社会のウェルビーイング、共生社会の実現）
- 社会教育人材の養成・活躍機会の拡充（社会教育主事、社会教育士、住民等）
- 社会教育施設の機能強化（地域コミュニティの基盤強化に資する）
- 教育DX、デジタル化の推進

2 ウェルビーイングについて

誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出され、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングが実現されるように、制度等の在り方を考えていく必要がある。

※次期教育振興基本計画の策定について（令和4年2月7日文部科学大臣諮問）より

3 第4期教育振興基本計画

- 今後の教育政策に関する基本的な方針（総括的な基本方針・コンセプト）

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

一人一人が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていく人。

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

[ウェルビーイングの要素]

幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、サポートを受けられる環境、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現（達成感、キャリア意識）、心身の健康、安全・安心な環境など。

■今後の教育政策の目標

<p>目標 8</p> <p>生涯学び活躍できる環境整備</p>	<p>人生の各場面で生じる個人や社会の課題の解決につながる学習機会が保障され、学ぶことで充実感を得て継続的な学びにつながるよう、生涯学び、活躍できる環境を整備する。多様な世代への情報提供や学習成果の可視化、仲間とつながりながら学ぶことができる環境整備を図る。</p> <p>例) 現代的・社会的課題に対応した学習、高齢者の生涯学習の推進、生涯を通じた文化芸術活動の推進等 など</p>
<p>目標 9</p> <p>学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上</p>	<p>学校・家庭・地域が連携・協働することにより、地域社会との様々な関わりを通じて子供たちが安心して活動できる居場所づくりや、地域全体で子供たちを育む学校づくりを推進する。</p> <p>例) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実 など</p>
<p>目標 10</p> <p>地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進</p>	<p>地域コミュニティの基盤強化に向けて、地域住民の学びの場である社会教育施設の機能強化や社会教育人材養成等を通じ、社会教育を推進する。</p> <p>例) 社会教育施設の機能強化、社会教育人材の養成・活躍機会拡充、地域課題の解決に向けた関係施設・施策との連携 など</p>

4 第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理より

■デジタル社会への対応

社会教育施設のデジタル環境整備、デジタル技術を活用した学び、デジタル社会の諸課題に関する学び、デジタルデバイドの解消

■社会的包摂への対応

社会的に制約のある人への社会教育の提供、学習ニーズの把握、主体的な学びへの意欲や地域社会への貢献意欲の醸成

■社会教育人材の在り方

地域課題解決に向けた住民の主体的参加の促進、アフターコロナのつながりづくり、共生社会の多様な担い手

■社会人のリカレント教育

職業経験等から導かれた問題意識や仮説をもとに、成果を社会に還元する仕事と学びの好循環

IV 今期審議会での意見

1 仙台市市民センターの概要、地区市民センター（地区館）の事業運営（令和6年1月審議会）

報告のポイント

- 市民センター全体の事業目的は、市民ニーズに応じた多様な事業を実施すること、主体的な生涯学習活動の充実を図ること、地域づくりにつながる人づくりを行うこと。
- 地域の担い手不足の課題に対し、市民参画型の事業に複数年かけて取り組むことで、事業に関わった地域住民の学習成果が地域活動につながっていくよう事業終了後も支援を続けている。
- 様々な社会問題について考える場が欲しいといった意見に対して、老壮大学の一コマに入れるなど、地域の方々が求めているものを講座に反映している。
- 世代や障害の有無にかかわらずだれもが参加しやすい環境づくりにも取り組んでいる。

主な意見

- 震災対応は、全国的にも想定していかなければいけない中で、市民センターができることも当然ある。そうしたところを一つの役割として示していくことは、今後の市民センターのあるべき姿かと思う。
- 市民センターとなると、子どもたちも「えー行くの」という雰囲気になる。色々と困難があるが、大学生、小学生、地域の人たちがつながればよいなど考えている。

2 市民センターの事例報告（令和6年3月審議会）

報告のポイント

- 区域内の離れた地区の住民が交流する場や機会の創出に取り組み、10年以上続けることにより、人材育成やネットワーク作りが進み、地域に根差した活動を展開できた。
- 市民センターは、複数のおやじの会をつないだり、小学校、中学校、高等学校、大学を巻き込んだ企画など、色々なネットワークの中で連携し事業を組み立てている。事業に関わる人材を、地域の宝として成長を促していく場をどんどん作っていくのが市民センターの役割と考えている。
- 地域を良くしたい、という住民のやる気を市民企画会議で形にし、地域活性化と世代間交流を目標とした新しい事業を実施した。

■ 主な意見

- 地域や団体、児童館などをつないだり、子育て世代を巻き込んだりすることで、世代間交流や活動の継続発展が促進される。
- いろいろな工夫で、広いエリア内の離れた地域をつないでいる。
- 市民センターは、地域を好きな人や何かしたい人・団体を探し出すこと、それらをつなぐハブ的な役割を果たしている。
- 住民や子どもたちに委ねることで、主体的に参加しやすく、動きやすいと感じた。
- 多文化共生の観点を取り入れる、仕事や学校でその地域に通っている人たちに参加を促すなどの、住民プラスアルファの企画に期待したい。
- うまくいっている事例の成功要素を抽出して共有し、社会に発信してほしい。

3 市民センターの事例報告（令和6年5月審議会）

■ 報告のポイント

- 新しいネットワークの構築と人材育成に向けて、子育て応援事業やすずむしの里づくり実行委員会事業、子どもの広場づくり事業など、さまざまな事業を企画した。
- 市民センター事業は地域への入り口ととらえ、地域への関心につながるよう、市民センターに来た人たちと活動している人たちが交流し、かかわりが増えるような取り組みを行っている。
- 多くの地域団体や学校、施設等が参画できるようコーディネートし、世代間交流や連携団体同士の接点生まれ、協働意識が醸成された。

■ 主な意見

- 昼間働いている方や、親世代の方たちも協力しており、楽しそう、できそう、敷居が低そう、遊び、といったキーワードがあるのか、あまり苦もなく参加している。
- 市民センターに接点を持った人が、将来、市民センターに限らず地域で活動しようという思いにつながるかもしれない。
- 仙台市の虫であるスズムシを地域資源として、地域の特性を生かしている。地域の方が積極的に参加し、地域の未来を見据えている。
- スズムシの飼育パンフレットや、区役所のプロジェクトから生まれた「ママらいふ手帳」など、目に見えるもの、手に取れるツールを活用している。
- 市民センターに来ない人こそ困っている人かもしれない。ここに来れば何かある、学べる、一緒にやろうということを伝えたい。新しい世代の住民などより多くの人を巻き込み、地域の防災意識の更なる向上にもつなげてほしい。
- 市民センターの人脈の広さや作り方、地域をまとめていく力が重要。サロンコーナーの設置や、小学校、中学校、高等学校、大学との連携など、地域によっていろいろなつながり作りが考えられる。
- 地域の課題や地域の素材・資源をどう活用していくか。いかに地域の方を巻き込み、来られない方に

も来てもらえるか。それらを動かしてくれる熱意やバイタリティーのある人材などを軸として考えていきたい。

4 市拠点館及び区拠点館の役割（令和6年7月審議会）

報告のポイント

- 生涯学習支援センターと各区中央市民センターには社会教育主事が配置され、拠点館事業のほか、地区市民センターの事業に対する相談・助言や、学校等との連携の橋渡しなどの支援を行っている。
- 職員研修の体系化と専門研修の充実により、住民の自発的な活動による発見、学習、探求行動を支援できる人材の育成を進めている。
- 地域防災への積極的な取り組みは仙台の大きな特長、仙台らしさの一つである。

主な意見

- 市民センターが頼りになる存在であることを生かしてさまざまな連携がなされており、地域の企業と協力した取り組みもあった。東日本大震災は日中に起こっており、その経験を踏まえて地域の協力体制について考えることが重要だ。
- 職員が異動しても地域が育つ、地域に人材を育てていくことが持続可能な社会につながるのではない。市民センターだけが頑張るのではなく、そこはうまく分担して、市民や住民に引き継げるようにすることを目指していければよい。
- 地域の歴史やほかの地区にはない良さを、住民や市民の人たちにどうやって知ってもらうか、がこれからの課題。
- 地域を愛するまちづくりが市民センターの一つの芯であり、地域の高齢者や子どもとつながり、広がっていくことが一つの大きな目標である。
- 住民が地域貢献の気持ちをもち、プロセスに参加するため、社会教育主事のフォローが重要だ。
- 例えばすずめ踊りや四ツ谷用水など、仙台らしさを示す素材に触れることで仙台が好きになる。また、こうした情報をデジタルで発信するのもよい。
- 安心できる、頼りになる、つながり、連携、仙台らしさなどがキーワード。
- 市民が市民を教える、市民同士が学び合い教え合うのが社会教育のあり方であり、市民センターあるいは社会教育主事がそういう場を作っていく、そうした位置付けを考えていきたい。

5 視察（令和6年8月、9月、10月実施）

視察の概要

- 鶴ヶ谷市民センター：子ども参画型社会創造支援事業 チーム「ニコ鶴」プロジェクト
中学生が地域の魅力を発信することで、互いに支え合う絆のあるまちづくりに貢献し、地域社会に貢献する若者・大人への成長を支援する。
- 北山市民センター：kitayamaひろば
日本人親子と外国人留学生親子の交流の機会を設け、多文化を尊重した子育てや地域づくりを目指す。
- 柳生市民センター：柳生和紙を知ろう
柳生和紙の歴史と製作工程、実際の製品を知ることにより、柳生和紙を理解しその魅力を広めていく人材を育成することを目指す。

主な意見

-
-
-

IV 審議会からの提案

- ・現在の市民センターの取り組みや国等の最近の動向を踏まえ、次期「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し（第三次）のあり方に反映させる意見について検討する。
- ・今期の審議テーマの「審議にあたっての留意点」に沿って意見をまとめる。

1 住民の主体的な参加や世代を超えた学び合い

■より多くの住民が、地域づくりを含む多様な活動に主体的に参加し、世代を超え学び合い認め合う相互のつながりを形成するためのきっかけづくりとして、市民センターが取り組むべき方策を検討。

-
-
-

2 人材育成や多様な主体との連携・協働を推進

■課題解決や地域づくりに取り組む人材を育成し、多様な主体との連携・協働を推進するための市民センター運営のあり方について検討。

-
-
-

3 震災の経験やコロナ禍からの回復

■震災の経験やコロナ禍からの回復の観点を踏まえた市民センターに求められる役割について検討。

-
-
-

(キーワード)

地域への愛着の醸成、地域人材、活動の継承、ハブ機能、社会教育主事の活躍・活用、場づくり、地域資源の発掘、学校連携、仙台らしさ、震災復興のその先、子ども・若者、世代交流、デジタル社会、ウェルビーイング、社会的包摂、多様性、アフターコロナ、誰一人取り残さない、持続可能な社会

1 前期審議会の答申

○答申「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」にて示された6つの観点と望ましい方向性の主なポイントは以下のとおり。

① 住民参画型の学び

- ✚ 市民センターと地域住民がプロセスやアプローチを共有する。
- ✚ 住民のニーズを把握し、アイデアを活用する。
- ✚ 市民センターが、地域内の知識や技能を有効に活用し、人的リソースを結び付ける場となる。

② 世代間交流

- ✚ 異なる世代のニーズを考慮し、世代を交差させる機会を創出し、事業の枠を越えた展開を推進する。
- ✚ 大人世代が若者や子ども世代から学び、フラットな関係で学び合う場を提供する。
- ✚ 子育て世代が気軽に参加できる環境づくりや事業展開をする。

③ 地域資源

- ✚ 地域資源を広くとらえ、歴史や文化、ヒト・コト・モノ・場などを地域資源として再評価する。
- ✚ 地域資源を発掘し、活用するプロセスを大切にす。
- ✚ 地域の特徴を明確にし、魅力をアピールする。

④ 持続可能性・つなぐ役割

- ✚ 住民主体の活動や自立に向けた支援を行う。
- ✚ 多様な主体の連携を促進し、人や団体がつながって事業が継続できる仕組み作りをサポートする。
- ✚ 事業の成果だけでなく、プロセスを重視し、長期的な視点を持つ。

⑤ 情報（成果物）発信

- ✚ 異なる世代の利用者に合わせた情報発信の方法を工夫する。
- ✚ 情報発信を通じて多世代を巻き込み、デジタルと紙媒体を併用する。
- ✚ 市民のニーズを把握し、的確な情報を提供する。

⑤ アフターコロナ

- ✚ コロナ禍が残したものは、人々の学びの意欲の低下や人とのかかわり方の変化。
- ✚ 市民センターは新たな人材の発掘や育成、人々のつながりとネットワークづくりを推進する。
- ✚ 地域・学校・行政など様々な主体のつなぎ役となる。

2 仙台市公民館運営審議会委員名簿

(任期：令和5年11月1日から令和7年10月31日まで)

	氏名	職業または所属団体	
1	あいざわ まさこ 相澤 雅子	仙台市立南小泉中学校学校支援地域本部 スーパーバイザー	副会長
2	いちのせ とものり 市瀬 智紀	宮城教育大学教育学部 教授	
3	いとう みゆき 伊藤 美由紀	東北工業大学ライフデザイン学部 准教授	
4	かどわき さち 門脇 佐知	株式会社ユーメディア 執行役員 メディアクリエーション部部长	
5	さかいり みきお 坂入 幹雄	仙台市連合町内会長会 庶務理事	
	きっかわ みつお 橋川 光男	仙台市連合町内会長会 庶務理事	
6	くまがい けいこ 熊谷 敬子	仙台市立虹の丘小学校 校長	
7	ささき しん 佐々木 心	仙台市議会 議員	
8	さとう まさみ 佐藤 正実	風の時編集部 代表	
9	さとう みちこ 佐藤 美智子	公募委員	
10	ちだ めぐみ 千田 恵	仙台市社会学級研究会 会長	
11	つかだ あきみ 塚田 昭美	地域夢つなぐ実行委員会W a k k a 代表	
12	はら よしひこ 原 義彦	東北学院大学地域総合学部 教授	会長
13	まき やすこ 牧 靖子	マイスクール川平 コーディネーター	
14	みうら かずみ 三浦 和美	東北福祉大学教育学部 教授	

50 音順・敬称略